

日本海洋科学振興財団 海外渡航費用援助 報告書

2026年 3月 6日

氏名		GAO JIAXUE
所属機関	機関名 (大学院生は大学院と研究科名まで)	東京海洋大学 大学院海洋科学技術研究科
	職名 (学生は学年)	博士課程後期2年
渡航期間		2026年 2月 22日 ~ 2026年 3月 1日
渡航先		グラスゴー、スコットランド
渡航目的とその成果、感想		<p>渡航目的 本渡航の目的は、国際学会 Ocean Sciences Meeting 2026 (OSM 2026) に参加し、自身の研究成果を発表するとともに、関連分野の研究者との学術交流を行うことである。Ocean Sciences Meeting は海洋科学分野における代表的な国際会議の一つであり、世界各国から多くの研究者が参加し、最新の研究成果について議論が行われる。 本学会では、“Mixing Induced Nutrient Supply in the Kuroshio on the Sloping Bottom Boundary in the Okinawa Trough” という題目でポスター発表を行った。本研究は、沖縄トラフにおける黒潮の斜面底層域において、潮汐混合および鉛直拡散が栄養塩輸送に与える影響について、数値モデルおよびラグランジュ粒子追跡を用いて検討したものである。今回の学会参加を通して、自身の研究内容を紹介するとともに、関連分野の研究動向を学び、研究内容への理解を深めることを目的とした。</p> <p>渡航成果 学会期間中、ポスター発表を行い、複数の研究者と研究内容について意見交換を行うことができた。特に、黒潮斜面域における潮汐混合と鉛直拡散が栄養塩輸送に与える影響について、多くの関心をいただき、数値モデルの設定や粒子追跡手法、結果の解釈などについて貴重なご意見をいただいた。 これらの議論を通して、自身の研究結果についてより深く考える機会を得ることができ、今後の研究を進める上での参考となる示唆を得ることができた。特に、結果の示し方やメカニズムの説明について、潮汐位相による輸送の変化をより明確に示す必要があることなど、今後の改善点について理解を深めることができた。また、口頭発表やポスター発表を聴講することで、海洋混合過程や物質輸送に関する最新の研究動向について知ることができ、今後の研究を進める上で大変参考になった。</p> <p>感想 今回の国際学会への参加を通して、研究成果を国際的な場で発表し、研究者と直接意見交換を行うことの重要性を改めて実感した。様々な研究</p>

背景を持つ研究者との交流を通じて、新しい視点から研究を見直す機会を得ることができ、自身の研究をさらに発展させるための貴重な経験となった。

また、ポスター発表を通して英語で研究内容を説明する機会を得たことは、自身にとって大きな学びとなった。まだ十分ではない点も多いが、今後の研究活動において国際的な学术交流を積極的に行っていきたいと考えている。

最後に、本渡航の機会をご支援いただいた奨学金関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。